

令和5年度江田島市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、広島県南西の広島湾に位置し、気象は、年平均気温17度と内海の影響を受け暖かく、年間降水量は1,153ミリと温暖少雨の典型的な瀬戸内海気候である。地形は、島嶼部特有の傾斜地が多く一戸当たりの経営規模は零細である。

本市では、温暖な気候と大消費地に近い立地条件を生かし、キクを中心とした花き栽培のほか、きゅうり・トマトなどの野菜、更には、みかんを中心とした柑橘類の栽培が行われている。

一方、農家の高齢化とともに、農家戸数の減少及び耕作放棄地の拡大が進んでおり、耕地面積を維持することが課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要減少に対応するため、担い手を中心に、高収益作物への転換を図る。

高収益作物の導入においては、重点品目を設定し、産地の生産の拡大を図るとともに、需要に応える生産を推進する。

また、本市の加工施設や補助金等を活用して、6次産業化及び高付加価値化の取組を促進し、地域産品のブランド化を図ることにより、生産単価を向上させ、第1次産業の経営の安定を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田の有効利用に向けた産地としての取組方針として、農地中間管理機構を通じた土地の貸し借りを推奨し、貸出しを希望する農地所有者と利用希望者のマッチングを行い、就農促進及び耕作放棄地の解消促進を図る。

また、重点実施区域においては、区画等の改良を推進し、水田等の平坦地においてもレモンの作付けの転換を図り、畑地化を含めた水田の有効利用に向けた検討をしていく。

地域におけるブロックローテーション体系の構築へ向け、対象農業者への聞き取りや、必要に応じた現地確認を引続き実施し、その結果を踏まえ、キク等を含めた輪作体系等を検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

現在の産地を継続させるため、優良農地等の集積を促進し、持続可能な産地づくりを目指す。

(1) 主食用米

水稻作付面積は6ha程度（生産者は40人程度）で、ほとんどが自家消費又は地元消費である。売れる米づくりの推進は困難なため、不作付地の解消を図りながら主食用米の生産確保及び農地の維持に努める。

(2) 高収益作物

市場評価が高く収益性及び付加価値の高い作物として、花きではキク、野菜では

きゅうり・トマトの栽培が行われており、本市の振興作物のうち水田環境の活用として定着してきた作物として位置付けている。

このうち、キクに関しては、市内の水田環境を活用した生産面積が広く、これを将来にわたって生産し、産地を維持するためには、担い手による生産が望ましいことから、これらの担い手に対する支援を行うことにより、担い手の経営安定を図りながら、生産維持が可能な産地づくりに取り組む。

きゅうり・トマトに関しては、水田環境を活用した場合における生産面積や生産農家は少ないため、拡大は困難であるが、市場評価及び収益性が高い作物であることから生産面積の維持に努める。

また、地域の特産野菜である、かぼちゃ・だいこん・さといも・ばれいしょに関しては一定の需要があり、収益性も高いことから、少量多品目で質の高い農産物の生産が行われている。生産振興の観点から、高齢者等においてもできるだけ長く農業に携わることができ、小規模であっても水田環境を荒らすことなく、多くの農家が農業生産に取り組んでいく環境を確保するためにも、需要を踏まえた少量多品目による農産物の生産面積の拡大を目指す。

(3) 地力増進作物

連作障害の回避、他の作物とのブロックローテーションの構築によるほ場の利用率の向上、地力の増進や災害時における地力の回復等を目的とした地力増進作物の活用を図っていく。

地力増進作物はすき込みを前提とし、具体的な作物は、次の表の作物とする。

科目	作物名
地力増進作物	トウモロコシ、ソルガム、大豆、イタリアンライグラス、レンゲ、クリムソンクローバー

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	5.30	5	5
地力増進作物	0	0	0
高収益作物	6.44	7.4	7.4
・野菜	0.54	1.4	1.4
・花き・花木	5.90	6	6
・果樹	0	0	0
・その他の高収益作物	0	0	0
畑地化	0	7.03	7.03

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	キク、きゅうり、トマト、かぼちゃ、だいこん、さといも、ばれいしょ	地域振興作物 作付助成	作付面積	(令和4年度) 2.95ha	(令和5年度) 3.9ha

2	キク	担い手地域振興 作物作付助成	作付面積	(令和4年度) 3.58ha	(令和5年度) 3.6ha
---	----	-------------------	------	-------------------	------------------

- ※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
- ※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

別紙のとおり

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名: 広島県

協議会名: 江田島市農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	地域振興作物作付助成	1	11,600	キク, きゅうり, トマト, かぼちゃ, だいこん, さ といも, ばれいしょ(基幹作物のみ対象)	出荷・販売を目的として2a以上, 作付面積に応じて支援
2	担い手地域振興作物作付助成	1	23,200	キク(基幹作物のみ対象)	認定農業者で出荷・販売を目的として2a以上, 作付面積に 応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。